



令和元年(2019年)6月より第2代芦屋市長となつたいとうまい市長。

市議会議員を経て市長となった経験の中で、政治家としての考えや、一芦屋市民としての考えを語っていただきました。

自然に受け継いだバトン

政治家を志したきっかけをよく聞かれるのですが、実は「これ」といったきっかけや動機がある訳ではないんです。

母が芦屋市議会議員として政治家になつた頃、当時は「男女雇用機会均等法」ができ、日本社会党で土井たか子さんが党首になられたのも同じくらいの時期です。女性活躍の素地ができつつあつた時代で、今と比べて女性が政治家になることはとても大変だつたと思います。

そんな時代に政治家を経験した母が、引退すると決めたとき、「自分のあとは女性に引き継ぎたい」という強い想いがあつたようです。

母はいろいろな方にお声がけをしていますが、最終的に白羽の矢がたつたのが私です。

姉が2人いますが、すでに別の職についていたのと、私が母の政治活動の手助けをしていたことなどから声をかけられたのです。

「特別じゃない」 感覚を大切に

政治家になつたからには母とは違う方法で市議会議員としての道に挑戦したいと思い、議員として最初は大きな会派で学び二期目は自分たちの会派をつくりました。

議員時代は、自らが関わって提案した政策が実現した時はすごく面白いし、皆さんから「ありがとう」と言われることは今でもモチベーションにつながっています。

いつも「笑う門には福来る」の想いで、気持ちの良い挨拶をするように心がけています。政治家になって精

Natural に今と向き合う

第2代 芦屋市長

いとう まい





いとう まい

1969年9月18日大阪府生まれ。1992年帝国女子大学（現：大阪国際女子大学）、2004年Hawaii University Maui分校卒業。2014年神戸大学大学院法学研究科前期課程修了。
東京海上火災保険株式会社代理店勤務等を経て、2007年芦屋市議に初当選。以降2019年まで3期にわたり芦屋市議を務める。2019年6月より現職。

神面で鍛えられたところはあると思いますが、時々、クヨクヨしたり、落ち込んだりもします。驚かれるかもしれませんが、嫌なことがあると、ぬいぐるみに話しかけながら気分転換をしています。（笑）
また、先々代の市長である北村春江市長も女性ですが、彼女は弁護士でもあり、高い能力をお持ちでした。私は彼女のような能力や地位がある訳ではありませんが、そんな自分みたいな人間でも政治の場でものを言えることが大切なんじゃないかなって思っています。自分たちの生活感覚を伝えられることが大事だと考えていますし、女性が政策決定の場にいることも必要だと感じています。

芦屋市長になって思うこと

月並みな言葉になりますが、芦屋のまちには自然があり、お洒落な街並みと便利さがとても良いところだと思っています。また、魅力を高めている要素として、このまちに住む人の存在が欠かせないと感じています。「芦屋ブランド」というのは、こういった複合的な要素が重なって魅力形づくっているんだと思います。この良さを次の世代まで残したい。

全国的な人口減少の中、自治体間で子どもや人の取り合いの中で、選ばれるまちになりたいというよりは、質の高いまちづくりを行うことで芦屋のまちの魅力を高めたいと考えています。

先代の山中市長の時代は、阪神・淡

路大震災による借金を返済しつつ市政運営をしなければならなかった時期でした。これからの時代は将来を見据えた持続可能な行政運営をしていかなければなりません。それが私の役目なのかと感じています。
市長や政治家になっていなければ、人と接する仕事をしていたと思います。将来の自分がどうなっているかは、ハッキリとした目標がある訳ではないけれど、子ども食堂のような子どもや困っているお母さんに関わりたいとも思っています。



次世代の人たちへ

今年には新型コロナウイルスの件もありましたので、政治が身近に感じられた年になったのではないのでしょうか。そういったご自身の身近なところに対して、感じているところから、まちづくりに興味を持ってもらえたらうれしいです。

FIGHT!

